後藤新平記念館所蔵 昭和5(1930)年東京市発行「復興アルバム」より。
関東大震災後、復興された東京・昭和通り江戸橋付近。後藤新平の震災復興構想は、
100年先の日本を見据えた壮大なプロジェクトでした。

2章

都市計画制度の進展

震災・戦災からの復興[1910年代–1950年代]

明治期を通じて近代化が進んだ東京では、
第一次世界大戦の影響による産業の躍進も相まって、人口の急増と市街地の拡大が進みました。
市街地の拡張に計画的に対処し、
望ましい水準の市街地への誘導もできるような都市計画制度が制定されたものの、
その矢先に起こった関東大震災により、甚大な被害を受けました。
震災の復興の過程で江戸の古い町割りは刷新され、現在の東京の骨格が形成されました。
その後、東京は大空襲により、再び壊滅的な状況となりますが、
10年程度で復興を遂げ、都心部への人口・産業の集中と市街地の拡大の兆しが見えてきました。

【大正中期・戦前・戦後期の主な出来事】

大正8(1919)年 ▶
都市計画法、市街地建築物法の公布

大正12(1923)年 ▶
関東大震災
「帝都復興計画」の決定

昭和2(1927)年 ▶
金融恐慌はじまる
東京で最初の地下鉄が開通

昭和14(1939)年 ▶
「東京緑地計画」の策定

昭和15(1940)年 ▶
日独伊三国軍事同盟を締結
都市計画法の改正(防空目的が加わる)

昭和16(1941)年 ▶
日米開戦　太平洋戦争はじまる

昭和18(1943)年 ▶
東京都発足

昭和20(1945)年 ▶
東京大空襲
終戦
「戦災地復興計画基本方針」が閣議決定

昭和21(1946)年 ▶
「東京都戦災復興都市計画」の決定
日本国憲法の公布